

無条件オファーと高等教育参加機会拡大政策が
英国の「恵まれない環境」にある学生たちに与える影響

ロンドン研究連絡センター

横山 芙季

1. はじめに

渡英前は、大学での研究者と事務方との関係の日英比較のようなものを本報告書のテーマに考えていたが、ロンドンセンターに赴任して間もなく、英国^Aでは、大学が学生の試験結果を全く考慮しないうえに賄賂を渡して入学させる場合があると聞いて大変驚き、そちらの方に興味が移ってしまった。日本の入試形態からはとても考えられないが、確かに「無条件オファー」と呼ばれる方式が存在し、試験の結果によらず入学が確定するうえに学生寮への優先入居やパソコン提供などの特典が提示される場合もあるらしい。そして、その無条件オファーを多く受けているのが、飛び切り優秀な学生どころか、あまり成績の良くない「恵まれない環境」^Bの学生だということではないか。なぜ大学はそのようなことをしなければならないのか。報告書のテーマは完全に変わった。

授業料無料のイングランドの大学に、国内と EU の学生について年間 1,000 ポンドを上限に初めて授業料が導入されたのは 1998 年のことだ。それ以降繰り返された制度改正やインフレに伴ってその上限は上昇し続け、2006 年には 3,000 ポンド、2012 年には 9,000 ポンドになった。2019 年現在の上限は 9,250 ポンドである^C。大学にとっては学生を多く集めるインセンティブが高まった訳だが、上限の授業料を適用するためには、恵まれない環境の学生に高等教育進学機会を与えるための取り組みについて目標を定め、実施計画^Dを学生局 (Office for Students) に提出しなければならない。先進国で最も厳しい階級社会と言われる英国では、階級間の経済的・社会的格差解消に向けた Social Mobility (階級間の移動) 促進のため、全ての人々に高等教育参加機会を与える Widening Participation 政策を数十年前から進めている^E。授業料の上限を引き上げることで大学の学生獲得モチベーションが上がり、政策を推進する形となっている。それにより、確かに恵まれない環境の学生の進学率は上昇している。国を挙げて大学進学を後押しするからには、進学して学位を取ればさぞかし未来への展望が拓けるのだらうと思うが、果たして実際にそうなのか。

本稿では、まず英国の教育制度と大学入学までの流れを簡潔に説明し、無条件オファーの実態と学生への影響を示す。続いて、恵まれない環境の学生の進学後の状況について述べ、無条件オファーと高等教育進学が彼らにとって明るい未来をもたらすものなのかどうかを考察する。

^A 本稿では、基本的に学生局 (Office for Students) の管轄であるイングランド地方を対象とする。

^B 低所得の労働者階級や、さらに深刻な貧困状態、周囲の誰も高等教育を受けたことがないなど、経済的に恵まれない状況を示す様々な要素があり、「disadvantaged background」や「under-represented」、「challenging circumstances」などと表現されているが、本稿ではそれらを一括して「恵まれない環境」とする。

^C Higher education tuition fees in England

<http://researchbriefings.files.parliament.uk/documents/CBP-8151/CBP-8151.pdf>

^D Office for Students 「Access agreements」

<https://www.officeforstudents.org.uk/advice-and-guidance/promoting-equal-opportunities/access-agreements/#>

^E House of Commons Library 「Widening participation strategy in higher education in England」

<http://researchbriefings.files.parliament.uk/documents/CBP-8204/CBP-8204.pdf>

2. 学生獲得競争と「無条件オファー」

2-1 義務教育終了から大学進学までの一般的な流れ

英国では、義務教育最終学年時に全国統一試験である「GCSE」(General Certificate of Secondary Education)を受験し、そこで一定の成績を収めれば2年間の高等教育課程(6th Form)に進学できる。6th Formでは、自分の希望や進学したい学部に応じて3~5科目を選択して集中的に学び、2年目に「Aレベル」(Advanced Level General Certificate of Education)と呼ばれる試験を受けるのが一般的^Fだ(図1)。

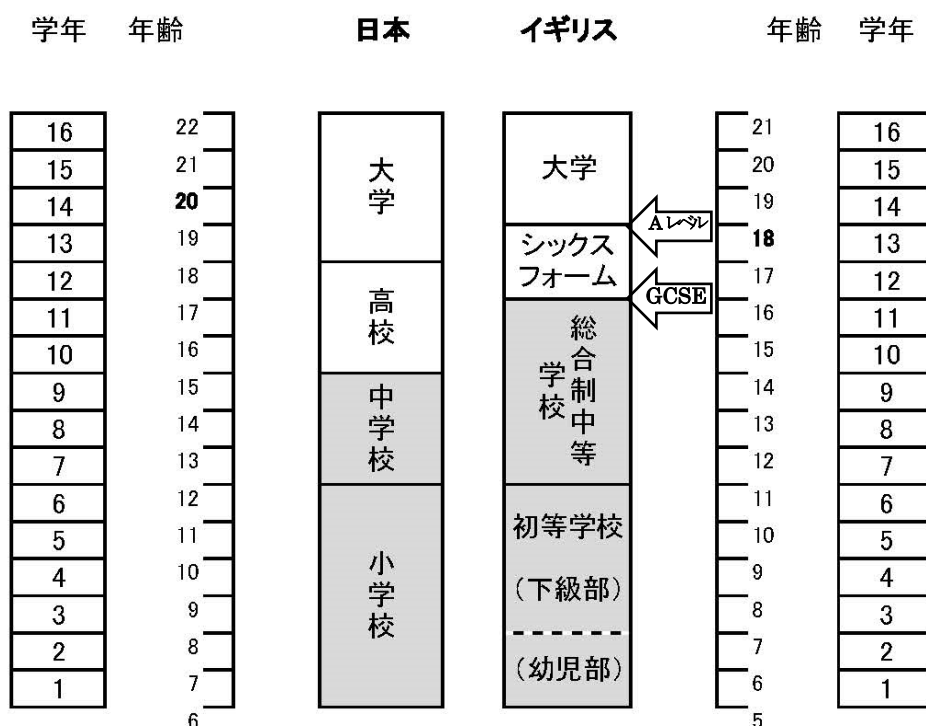


図1 イギリスの学校系統図

(出典: 日本学生支援機構「イギリスにおける奨学制度等に関する調査報告書」[1]を参考に作成)

Aレベル試験の結果は上からA*、A~E、Uの7段階で評価され、多くの大学が入学許可判定の基準としている。また、GCSEもAレベル試験も、試験結果は就職などの際に履歴書に記載する必要があるため、高等教育に進学しない学生にとっても重要な試験となる。

大学への出願はひとり最大5校までで、通常は総合出願機関であるUCAS(University & College Admissions Service)を通じて行う。出願締め切りはAレベル試験より前に設定されているので、学校側は模試の成績などを元に各生徒のAレベル試験結果を予測した「予測成績」を作成してUCASに提出し、各大学はそれをGCSEの成績と併せて入学許可判定の際の重要な判断材料とする(その他、出身校や家庭の経済状態、ボランティア経験等々の生徒に纏わる様々な

^F その他の大学入学資格試験として、国際バカロレア(IB)ディプロマ、スコットランドのハイヤーまたはアドバンスト・ハイヤー、BTEC(Business and Technology Education Council)ディプロマなどがある。

個人的状況を勘案する場合もある)。

出願後、生徒は A レベル試験前に各大学から何らかの結果通知 (入学オファーや却下など) を受け、それを見て第二志望まで選択した後、本番の A レベル試験 (5~6 月) に挑み、8 月下旬に試験結果が出る。

大学側から学生への結果通知も通常は UCAS システムを通じて行われ、入学が許可されない「却下」を除いて以下の 3 種類に大きく分かれている。

1	条件付オファー (Conditional)	A レベル等の試験で、大学が求める基準を満たす成績を取れば入学可 (その他各大学が求める入学要件を満たすことも必要)。	無条件要素のあるオファー (Offer with an unconditional component)
2	無条件オファー (Direct Unconditional)	A レベル等の試験結果に関わらず入学可。	
3	条件付無条件オファー (Conditional Unconditional)	その大学を第一志望とし、必ず入学することを条件に A レベル等の試験結果に関わらず、もしくは基準成績を含む入学要件を緩和して入学可。	

2-2 急増する「無条件要素のあるオファー」

2013 年までは、本番の A レベル等の試験結果が基準を満たしていれば入学が許可される「条件付オファー」が一般的だったが、2014 年に初めて「条件付無条件オファー」を UCAS が確認して以降「無条件要素のあるオファー」を受ける学生の数が増している (表 1)。

年	全出願者数	無条件オファーを一つでも受けた出願者数	無条件オファーを一つでも受けた出願者の割合	条件付無条件オファーを一つでも受けた出願者数	条件付無条件オファーを一つでも受けた出願者の割合	無条件要素のあるオファーを一つでも受けた出願者数	無条件要素のあるオファーを一つでも受けた出願者の割合
2012	213,795	1,680	0.8%	0	0.0%	1,680	0.8%
2013	215,930	1,905	0.9%	0	0.0%	1,905	0.9%
2014	222,020	9,780	4.6%	7,290	3.4%	14,695	6.9%
2015	230,860	19,655	8.8%	14,195	6.4%	28,975	13.0%
2016	232,830	30,610	13.6%	20,940	9.3%	43,925	19.5%
2017	234,570	41,470	18.1%	35,750	15.6%	62,555	27.4%
2018	230,740	53,640	23.7%	49,050	21.7%	81,165	35.9%

表 1 受けたオファーの種類別 18 歳出願者数

(出典: Office for Students 「Update to data analysis of unconditional offers」 [2] を参考に作成)

無条件オファー自体は入学選考手続きの一環として以前から存在し、以下のようなケースに対して適用されてきた。

1. 入学要件に見合う学力を有した成人である出願者
2. クリエイティブアート系コースなどへ進学を希望する、才能に秀でた出願者
3. 試験の重圧を緩和したり、サポートが必要な精神的問題を抱えた出願者
4. 優秀な学生を早い段階で確保するための様々な手段のひとつとして

2013年以前はいずれの場合も限定的な適用に留まっていたが、2018年の時点では18歳出願者のうち35%を超える学生が無条件要素のあるオファーを最低一つは受けており、2019年の最新状況では、その数は97,125人で、出願者の37.7%を占めている[3]。

学生に決断を迫り過度なプレッシャーを与えるとして特に懸念されているのが条件付無条件オファーだ[4]。2019年に3,800人の学生を対象に行われた調査の結果は、大学側から条件付無条件オファーと併せてインセンティブを提示されるケースがあることを示している[5]。以下、3,800人の学生のうち各種インセンティブを提示された割合である。

- ・寮などの宿泊施設の優先選択権 - 14%
- ・奨学金 - 8%
- ・無料もしくは割引のジム会員権 - 7%
- ・金銭授与 - 4%
- ・ノートパソコン他の専門機器 - 3%
- ・学費免除 - 2%
- ・その他 - 17%

より多数(30,000人)の学生を対象に行われた最新調査でも、30%が学生寮の確保、17%が奨学金や金銭授与のオファーがあったと回答している。また、36%が入学基準成績の引き下げや入学要件の緩和を提示されており、23%だった2018年と比べて目立って増えている[6]。

2-3 学生たちへの影響

無条件要素のあるオファーを受けた学生たちのうち3分の2は、オファーを肯定的に捉えており、「試験前のストレスが緩和された」、「入学が確約されることでモチベーションが上がった」などの声もあるが、一旦条件付無条件オファーを第一志望“firm choice”として受け入れると、他の大学からのオファーを受けることはできなくなる(条件付オファーをfirm choiceとして受け入れ、他大学からの無条件オファーを第二志望“insurance choice”として受け入れることは可能)。

オファーを受けた時期によって各大学への回答期限に差はあるが、6月30日には全ての大学への回答が締め切られる。その後にもし気が変わっても、当初受けた他のオファーは全て断っているため、コース定員に空きのある大学に出願しなおす「クリアリング」と呼ばれるシステムを利用するしかない。

学生たちの成績にもオファーの影響が見られる。

<本番 A レベル試験での成績不振>

無条件要素のあるオファーを **firm choice** として受け入れた学生は、A レベル試験結果を待たずして（仮に受験すらしなかったとしても）、進学先が確定することになる。結果として、無条件オファーを受け入れた学生が本番の A レベル試験で予測成績を下回る率は、条件付オファーを受け入れた学生よりも高くなっている（図 2）。

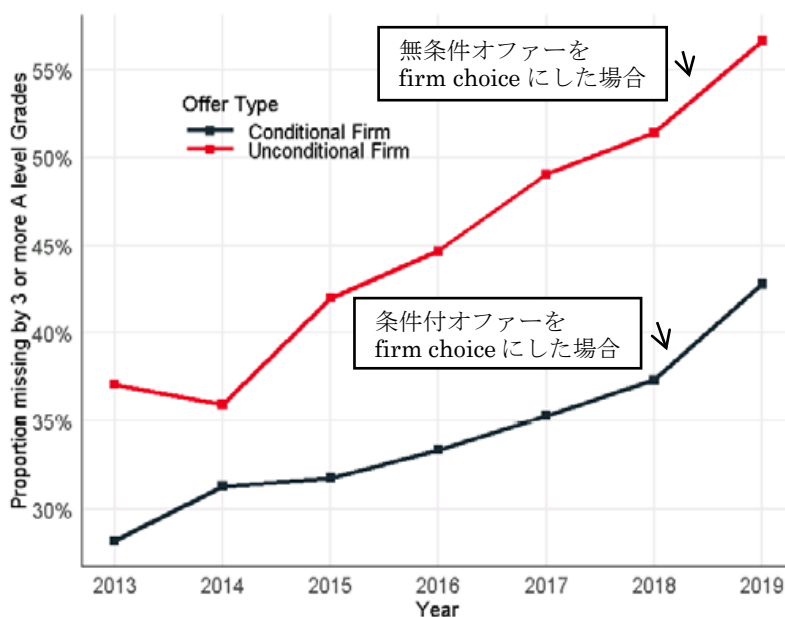


図 2 受入オファー別 A レベル試験結果が予測成績を 3 段階以上下回った率

(出典：UCAS「UCAS END OF CYCLE REPORT 2019 INSIGHT REPORT THE APPLICANT EXPERIENCE」[6])

この本番試験での成績不振は女子学生より男子学生において顕著で、無条件オファーを受けた男子学生の試験結果が予測成績を 3 段階以上下回った率は、彼らが条件付オファーを受けた場合より平均 15.5% 高くなる（女子学生の場合は 9%）[6]。これは A レベル試験が単なる大学入学試験では無く、就職の際にも採用側が成績を参照することを考えると、学生たちのその後の人生にも長く影響を与えかねない問題と言えるだろう。

<退学率の増加>

Office for Students (OfS) は 2015 年–2016 年入学者のデータ（図 3）をもとに、無条件オファーを受け入れた学生が一年以内に退学する率は、彼らが条件付オファーで入学した場合よりも 10% 高くなり、このまま無条件オファーの数が増え続ければ、そのために毎年 200 人以上の退学者が出ることになるとの分析を公表した^G。

^G OfS は、まだ「無条件オファー」の数が現在より少なかった期間のデータしか集計できていないため、退学率については新たなデータで引き続き検証を続けるとしている[7]。

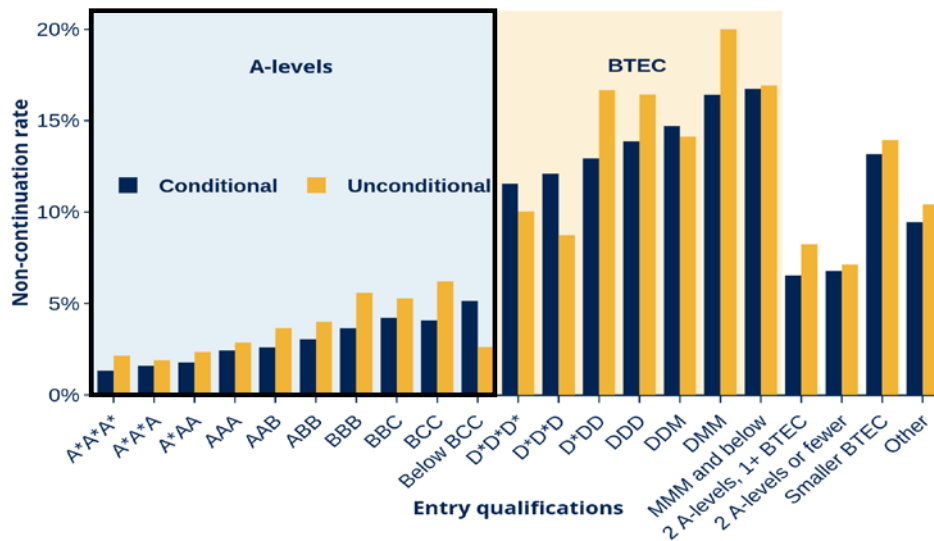


図3 入学成績・オファー種別退学率（2015年－2016年入学）
 （出典：OfS Insight 1「Unconditional Offers Serving the interests of students?」 [7]）

2-4 考察

成績不振や退学率増加のデータが示すのは、無条件要素のあるオファーを安易に受け入れるのは必ずしも学生本人のためにならない可能性があるということだ。試験に真剣に取り組んで良い結果を出し、上のレベルの大学に進学したり、より良い職を得たりする機会を失うかもしれない上、自分の学力や才能に適した大学でなかった場合は入学しても修学意欲を継続できず、退学に繋がる場合もある。また、大学にとっても、予測成績のかなり低い学生に無条件オファーを出すことは、大学の質の低下を招きかねない。

無条件オファーは、入学難易度（Tariff Point）^Hが中程度以下の「ポスト1992大学」や「新大学」と呼ばれる、1992年に「継続・高等教育法」によって大学に昇格した旧ポリテクニク（職業教育中心の高等教育機関）などが多く出しており、学生たちが **firm choice** とした全ての無条件オファーのうちの80%近くを占めている（表2）。伝統ある有名校に比べて学生集めに苦勞しているこれらの大学が、自分たちの利益のために無条件オファーを利用していると批判されている。

OfSは大学等の高等教育機関に対し、条件付無条件オファーは心理的なプレッシャーを与えたり、決断を急かしたりする圧力販売と同類で、消費者保護法に違反する可能性があるとして警告した[8]。また、Gavin Williamson教育相も、学生を買収するために無条件オファーを利用するのは止めるべきだとの見解を示している[9]。

^H Aレベル試験等の成績をポイントに換算したもの。

	firm choice のオ ファー数	firm choice の無条 件オファー数	firm choice のオ ファーのうち無条件 オファーの割合	全オファーのうち firm choice の無条 件オファーの割合
専門大学	5,275	560	11%	2%
Tariff point 高	94,150	4,455	5%	17%
Tariff point 中	53,295	10,525	20%	40%
Tariff point 低	31,545	10,030	32%	38%
その他	4,890	495	10%	2%

表2 大学タイプ別 2017年に firm choice となった全オファーと無条件オファーの割合
(出典: OfS Insight 1 「Unconditional Offers Serving the interests of students?」 [7]を参考に作成)

3. 大学進学の前にあるもの

3-1 進学を促される「恵まれない環境」の学生たち

無条件要素のあるオファーがこの5年で急増した背景には、2015年にイングランドで学部の入学定員枠が撤廃され、大学にとって200億ポンドを超える歳入市場が解放された状態となった[10]ことや、同年、恵まれない環境にある学生が高等教育に進学する割合を2020年までに2倍にするという目標を政府が定めた[11]ことで、各大学間で可能な限り多くの学生を確保することへのモチベーションが急激に高まったことが要因として考えられる。

このような無条件オファーを最も多く受けているのは、POLAR4による分類¹で「Quintile1: 最も高等教育進学率が低い」エリアに区分される地域出身²の学生たちである(図3)。2019年に「Quintile5: 最も高等教育進学率が高い」地域出身の18歳出願者が無条件オファーを受けた割合は20%であったのに対し、「Quintile1」の出願者では30%となっている(図3)。彼らは貧困のため日常から勉学に集中できる状況に無く、予測成績でも良い結果とならない場合が多い。低く見積もられた成績に加えて高等教育とは無縁の家庭環境の中、家族からのサポートや適切なアドバイスも受けられず、入学難易度のあまり高くない大学からの無条件オファーをそのまま受け入れてしまう傾向にあると懸念されている。

¹ 郵便番号ごとに区分したエリア内に居住する18歳~19歳人口のうち、2009年度から2013年度にかけて大学に進学した者の比率によって、そのエリアを、最も進学率が低い「Quintile 1」から最も高い「Quintile 5」に5区分したものの。

² 高等教育への進学率は社会的階級や家の所得、親の学歴などの影響を強く受けるため、一般的に低所得の労働者階級が多く、進学率の低い地域に居住していること自体が進学にあたって不利な状況とされている。

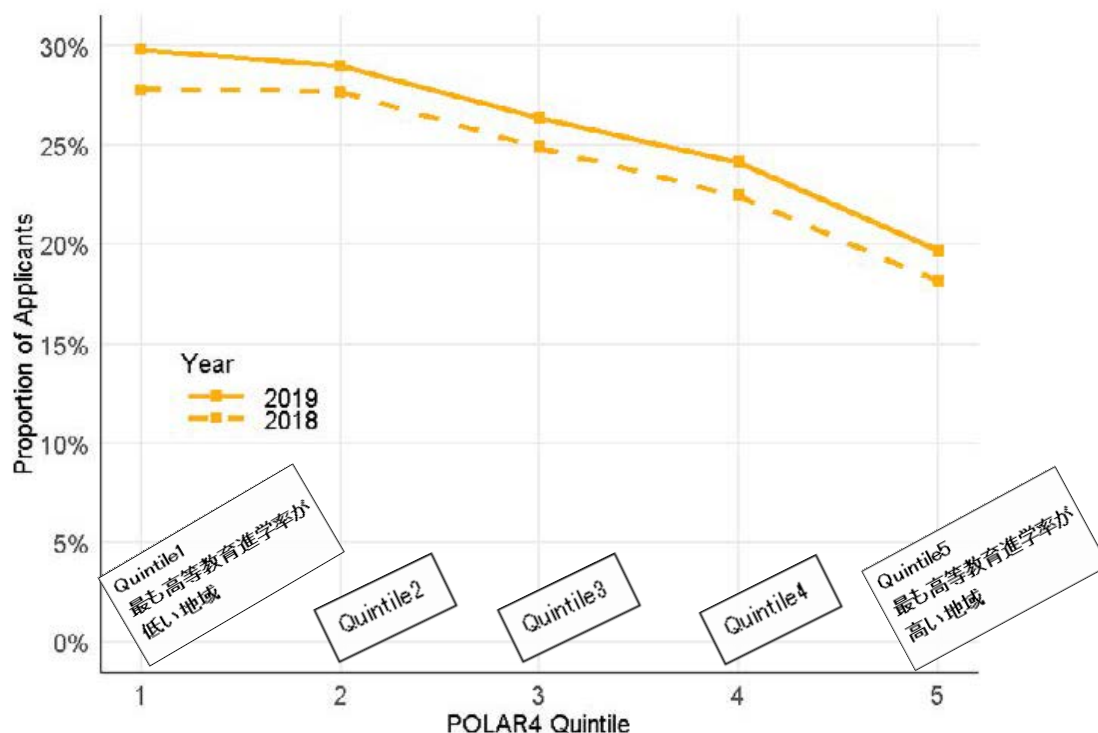


図3 一つでも無条件オファーを受けた Quintile レベル別 18 歳出願者の割合
 (出典：OfS 「UNCONDITIONAL OFFERS – AN UPDATE FOR 2019」 [12])

OfS は、大学側は意図的に恵まれない環境の学生たちを狙って無条件オファーを出しているのではないと見ており、学生ではなく大学の需要によってオファーが出され、結果的に多くの恵まれない環境の学生たちがそれに反応している点に問題があるとしている。無条件オファーの良い点としてよく挙げられるのが、オファーを受けることで、成績の低い恵まれない環境の学生たちが自信を持てるというものだが、OfS は、個々の学生の社会的階級、学校での成績、その他の個人的データや情報などを基に進学後の展望を予測し、入学基準成績を個別にカスタマイズした条件付オファーであるところの Contextual Offerの方が、同じく彼らに自信を与えられると共に、試験で最善を尽くすモチベーションを保て、より有効だとしている[7]。

無条件オファーの急増は過熱した学生獲得競争の産物であるが、無条件オファーが増える遙か以前から、高等教育進学者を増やすことは国の政策として進められてきた。2004年以降から、政府により定められた基準額より高い授業料を設定しようとする大学は、学生が経済的・環境的理由によって高等教育参加機会を失うことを防ぐための財政支援やアウトリーチ活動などについて、公正機会局長 (DFA: Director of Fair Access) の承認を得た計画 (2018年までは Access Agreement だったが 2019年からは Access & Participation Plan : APP)^Kを提出することとなっている。2014年4月には、公正機会局 (OFFA: Office For Fair Access) とイングランド高等教育財政審議会 (HEFCE: Higher Education Funding Council for England) との連名での報告書「高等教育におけるアクセスと学生の成功のための国家戦略 (National strategy for access and student success in higher education)」が出され、この中でも Access Agreement に関して、各

^K 一旦 APP を提出すると、大学側は OfS の監視下に置かれ、毎年評価され、実施状況が公表される。

大学に「学生に対して戦略的にアプローチして最大の効果を挙げる」こと、「国内の高等教育参加機会の拡大（Widening Participation）にどのように貢献したかを含め、活動の成果を実証する」ことを求めるとしている[13]。

これらの政策を受けた各大学の活動が功を奏して、Quintile レベル 1 の学生の進学率は年々増加し、2019 年には 21%となった（図 4）。

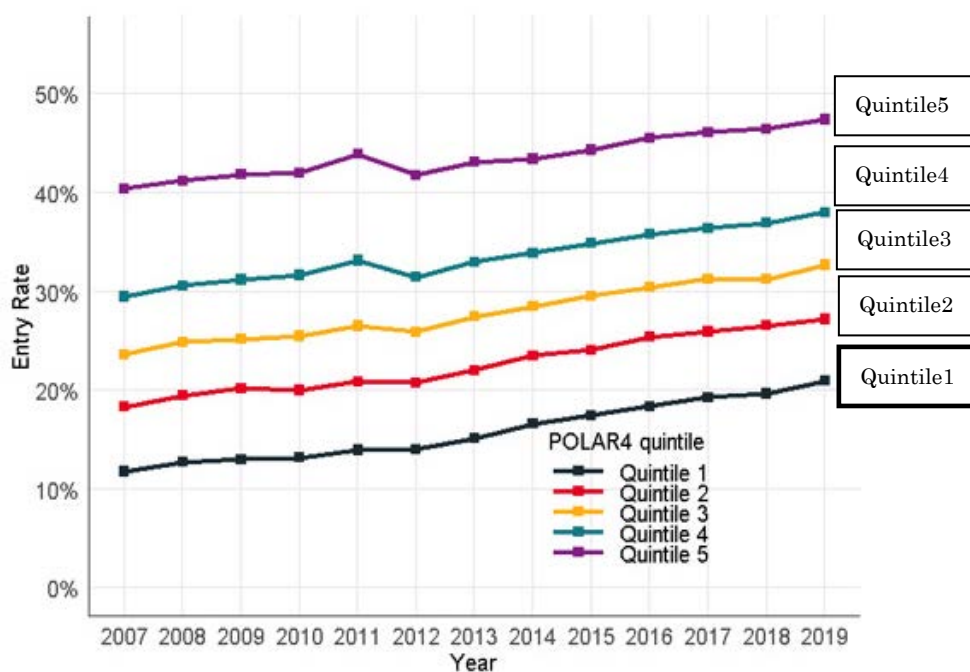


図 4 Quintile 区分ごとの英国 18 歳入学者の割合
 (出典：UCAS「UCAS END OF CYCLE REPORT 2019：CHAPTER 6 WIDENING ACCESS AND PARTICIPATION」[14])

3-2 進学後に待ち受ける困難

サマープログラムや体験入学、奨学金など、各大学は様々なアウトリーチ活動を展開し、恵まれない環境の学生たちの進学を後押ししているが、大学に進みさえすれば彼らの未来が約束されるという訳ではない。

Quintile レベル 1 の学生の入学 1 年経過後の退学率は Quintile レベル 5 の学生よりも常に高く、2016 年－2017 年入学では 10%を超える学生が退学している（図 5）。APP でも彼らの退学率改善を目標に掲げている大学は多いが、Quintile レベル間での退学率のギャップが埋まる兆しは見えない。

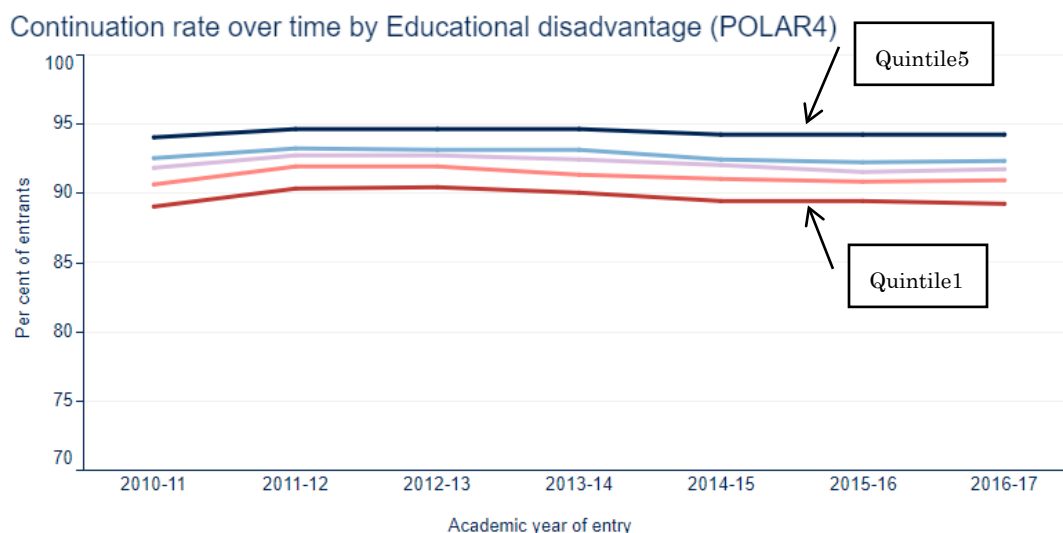


図5 大学学部入学1年後の Quintile レベル別継続率
(出典：OfS 「Continuation and transfer rates」 [15])

Mary Richardson 准教授 (University College London 教育研究所) は以下のように語っている。

10年以上ロンドンの『新大学』で教えていた間よく目にしたが、恵まれない環境にある学生は入学しても、経済的・社会的バリアによって退学しがちである。私の学生の殆どは恵まれない家庭出身で、家族からのサポートも殆どなく、経済的に余裕がなく、家も貧しい中、幼い家族を一人で養わなければならない学生も多かった。そんな状況が重なれば、最も優秀な学生であっても修学を続けるモチベーションや支えを失ってしまう。[16]

彼らは卒業できたとしても、職探しの際に更なる試練にさらされることとなる。雇用側は採用に当たって A レベルの結果や大学での成績を参照するため、恵まれない環境の学生にはそれだけで不利な状況となるのに加え、彼らは貧困によるストレスや日々の不安定な生活の中、自信や個性や外向性が育まれていない場合が多い[17]。大学在学中にインターンシップや課外活動に時間を割く余裕もなかったことで、面接でアピールできず、良い印象を残すことができない。

恵まれない環境にある学生がオックスフォードやケンブリッジなどの最難関大学に進学する割合は、全学生平均が 12%であるのに対して 5%であるが、これらの名門校卒業の肩書も専門職への就職を保証するものではない。むしろ英国の名門大学連合であるラッセルグループに属する大学のほうが、学生の就職に関心がないように見える。

英国の公立大学の Social Mobility Graduate Index[18] (SMGI：各大学の卒業生が大卒資格を要する専門職に就いた割合を、計算式を用いて数値化したもの。値が大きいほど Quintile レベルの低い、恵まれない環境の学生の専門職就職率が高いことを示す。平均値は 1.45) 上位 20 校と下位 20 校を並べてみると、下位 20 校のうち 7 校がラッセルグループの大学だが、上位には 1 校も入っていない (表 3-1、3-2)。このランキングは 2011 年-2012 年に卒業した学生についての調査結果だが、ランキング内の機関が現在、恵まれない環境の学生の入学を増やす意思があるの

か、卒業生の就職について対策をとっているか、を見る目安として、2019年－2020年の Access & Participation Plan (APP) の有無と、APPがある機関に関しては就職率に関する何らかの数値目標をそこに盛り込んでいるかどうかを調査して表中に記した。

順位	機 関 名	SMGI 値	Access & Participation plan 2019-2020	
			APP の有無	就職に関する 数値目標
1	University of St Mark & St John (Plymouth Marjon University)	1.8	○	○
2	Ravensbourne University London	1.79	○	○
3	University of Suffolk	1.74	○	○
4	Edge Hill University	1.73	○	○
5	University of Huddersfield	1.72	○	×
6	Arts University Bournemouth	1.71	○	×
7	The University of Lincoln	1.69	○	○
=8	The University of Northampton	1.68	○	○
=8	Leeds Arts University	1.68	○	○
=8	Leeds Trinity University	1.68	○	○
=11	Coventry University	1.67	○	○
=11	Norwich University of the Arts	1.67	○	×
=13	Canterbury Christ Church University	1.66	○	○
=13	University of Derby	1.66	○	○
=15	Aston University	1.64	○	○
=15	University of Chester	1.64	○	○
=15	University of the West of England, Bristol	1.64	○	○
=18	University of Chichester	1.63	○	○
=18	University of Worcester	1.63	○	○
20	Falmouth University	1.62	○	○

表 3-1 英国内公立大学 2011 年-2012 年卒業生の Social Mobility Graduate Index
上位 20 校と APP2019-2020

順位	機 関 名	SMGI 値	Access & Participation plan 2019-2020	
			APP の有無	就職に関する 数値目標
117	The University of Sussex	1.31	○	○
=118	★Imperial College London	1.3	○	×
=118	★King's College London	1.3	○	×
=120	Kingston University	1.29	○	○
=120	Middlesex University	1.29	○	○
=120	★University College London	1.29	○	×
=120	University of Westminster	1.29	○	○
=124	★The University of Cambridge	1.28	○	×
=124	London South Bank University	1.28	○	○
=126	Conservatoire for Dance and Drama	1.27	○	×
=126	★University of Durham	1.27	○	○
128	★Queen Mary University of London	1.26	○	○
129	Guildhall School of Music and Drama	1.24	○	×
130	Heythrop College	1.22	×	
=131	University of East London	1.21	○	○
=131	Goldsmiths, University of London	1.21	○	○
133	The Courtauld Institute of Art	1.19	○	×
134	Royal Holloway, University of London	1.17	○	○
135	SOAS University of London	1.12	○	×
136	★The University of Oxford	1.09	○	×

表 3-2 英国内公立大学 2011 年-2012 年卒業生の Social Mobility Graduate Index
下位 20 校と APP2019-2020 (★印はラッセルグループ校)

【表 3-1、3-2 共通】

出典：Michael Brown 「Higher Education as a tool of social mobility」 P40

Appendix 1: Universities ranked according to their SMGI values [18] を参考に作成

※①ウェールズ、スコットランド、アイルランドの機関は除外、②機関ではなく学部としてランクインしたものは除外、③改組等により現存しない機関については除外、④「インターンシップ参加率を上げる」、「キャリアアドバイザーを雇用する」等の間接的な目標については除外

※機関名は最新のものに修正

3-3 考察

APPの中に就職率に関する数値目標を設定することは今のところ必須ではないようだが、SMGI値ランキング上位と下位の大学間では明らかに差が見られた。ラッセルグループの大学にはそもそも恵まれない環境の学生が少ないため、彼らの就職に関する対策等にもあまり関心が払われていないと思われるが、APPを提出し、恵まれない環境の学生の入学を増やすつもりであれば、彼らの就職についても何らかの対策が必要ではないだろうか。表3-1、3-2から見えるのは、少なくとも恵まれない環境の学生にとっては、名門校に進学しても就職に有利になるとは言えないということだろう。

恵まれない環境からケンブリッジ大学に入学し、現在2回生のDaniella Adeluwoyeは以下のように語っている。[19]

入学して最初の年に自分と他の裕福な学生との貧富の差を見せつけられた。ジャーナリズムの道に進みたかったが、仕事は不安定で給与も低い。裕福な同級生たちは無給のインターンシップを通じて機会を探ることができるが、私には金銭面で安定したキャリアパスが必要だ。同級生たちの会話を耳にしたが、彼らの家族付き合いは、様々なCEOや大物たちばかりで、卒業したら彼らが“手をまわして”くれる。私の両親には価値のあるコネなどない。

ミドルクラスの親たちは、芸術に関する知識などの文化的な資力を子供達に擦り込んでいる。もし就職面接で私が知的な話題に付いて行けなかったら、合わないと思われて採用されないのではないだろうか。私は何とかケンブリッジでやっているが、同級生たちが会話ひとつで私がタイトルすら知らない彼らのお気に入りの、キーツやブラウニングやハーディなどの詩を引用しながら一堂々と人を魅了しているのを見ると、よく疎外感を覚える。

学校や教師たちに強く言いたいのは、期待を持たせないで欲しいということ；オックスブリッジの学位が労働者階級から抜け出す道であるかのように描かないでもらいたい。上に上られる夢を売りつけられたが、この1年でそれは現実とは程遠いことが露呈した。私が学んだのは、生まれた時からの階級が、私たちの経済や文化や人間関係や可能性の殆どを形作っているということ、それはケンブリッジの学位では拭い去ることはできないということだ。

4.まとめ

雇用側の半数以上が、新卒採用の際に大学の成績や職務経験より重要視するのが、学生の人当たりや個人的資質だという[20]。employability skills や soft skills と呼ばれる、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、リーダーシップ、批判的思考力などの資質については、学生側も雇用側も大学が主体となって身につけさせるべきだと考えており、すでに69%の大学で何らかの取り組みが行われている[13]が、親が医者や弁護士や教員などの専門職でない学生が専門職に就ける割合は、親が専門職である学生に比べて80%低く、また、専門職業界に就職できたとしても、恵まれない環境の出身者は、ミドルクラスの同僚よりも年間平均17%収入が少なくな

る[21]。

これらのデータが示すのは、大卒資格の必要な専門職業界は未だにミドルクラスの価値観で支配されているということだろう。大学でいくら **employability** としてスキルを習得したとしても、雇用側が自分たちの「新しい仲間」に求めるものが、親のコネや自分たちと同じユーモアのセンス、洗練されて上品であることなどであれば、それらは後から身につけようもない。

政府は進学率を上げることに注力し過ぎているのではないか。無条件オファーも、その政策を受けた大学間の競争が激化し過ぎた末、学生のためになるかどうかという最も重要な観点を見失ったために急増したものだ。恵まれない環境の学生たちに進学を促すばかりで、その後のサポートが十分ではないのは、彼らの退学率が改善されないことが示している。一定額の収入を得られるようになるまで授業料の返済は猶予されるというもの、卒業後に多額の負債を抱えることにもなる。大学など行かず、手に職を付けた方が収入が多くなる場合もある。また、学位を取っても雇用側が恵まれない環境の学生を受け入れる用意ができていない。

Social Mobility 改善のために大学が貢献できる部分には限りがあり、これはもはや高等教育機関だけで対応できる範疇を超えた課題だろう。雇用側の 41% は多様な社会的階級からの採用について何の取り組みも改善計画も無い状態[13]であるというが、大学側だけでなく、雇用側に対しても **Social Mobility** を改善するよう政府として介入が必要ではないだろうか。

2020年1月30日、今年度条件付無条件オファーを出した大学の 75% が来年度はそれを出さず、無条件オファーを含む他のオファー形式を採用するだろうとの予測を公表した[22]。いくつかの大学が来年度は条件付無条件オファーを出さないと表明しており、現時点ですでに潮流の変化が見られること、2019年度の状況で条件付無条件オファーがあまり **firm Choice** とならなかったことなどに基づく予測だという。来年度の入学状況に注目したい。

謝辞

東京での研修の間、日本学術振興会東京本部の皆様と国際協力員の皆様には大変お世話になりました。

ロンドン研究連絡センターでも、上野信雄センター長をはじめとするセンター内の皆様に日々支えられたことで、研修を恙なく終えることができそうです。リサーチアドミニストレーターの山田泰子さんには本稿の執筆にあたって様々なアドバイスをいただきました。

この場をお借りして皆様に心より感謝申し上げます。

【参考資料】

- [1] 独立行政法人日本学生支援機構政策企画部総合計画課調査分析室 「イギリスにおける奨学制度等に関する調査報告書」
https://www.jasso.go.jp/about/statistics/_icsFiles/afieldfile/2015/10/15/all_studenloanuk.pdf
- [2] Office for Students : Update to data analysis of unconditional offers
<https://www.officeforstudents.org.uk/publications/data-analysis-of-unconditional-offers-update/>
- [3] UCAS 「UCAS END OF CYCLE REPORT 2019 CHAPTER 5: UNCONDITIONAL OFFER-MAKING」
<https://www.ucas.com/file/292711/download?token=hPNcy1Qo>
- [4] Office for Students : The Office for Students welcomes projected cut in 'strings attached' unconditional offers
<https://www.officeforstudents.org.uk/news-blog-and-events/press-and-media/ofs-welcomes-projected-cut-in-strings-attached-unconditional-offers/>
- [5] The Uni Guide 「Unconditional offers: should you always accept? 」
<https://university.which.co.uk/advice/ucas-application/unconditional-offers>
- [6] UCAS 「UCAS END OF CYCLE REPORT 2019 INSIGHT REPORT: UNCONDITIONAL OFFERS -THE APPLICANT EXPERIENCE」
<https://www.ucas.com/file/292731/download?token=mvFM1ghk>
- [7] Office for Students : Insight 1 Unconditional Offers Serving the interests of students?
<https://www.officeforstudents.org.uk/media/7aa7b69b-f340-4e72-ac0f-a3486d4dc09a/insight-1-unconditionaloffers.pdf>
- [8] OfS 「Universities must avoid using unconditional offers to put pressure on students, says Office for Students」
<https://www.officeforstudents.org.uk/news-blog-and-events/press-and-media/universities-must-avoid-using-unconditional-offers-to-put-pressure-on-students-says-office-for-students/>
- [9] The Telegraph 「Universities must end 'incentivised' unconditional offers, education secretary Gavin Williamson says」
<https://www.telegraph.co.uk/news/2019/09/12/universities-must-end-incentivised-unconditional-offers-education/>
- [10] WHONKE 「Universities need to play catchup to their business reality」
<https://wonkhe2dev.jynk.net/blogs/universities-need-to-play-catchup-to-their-business-reality/>
- [11] UK Parliament 「Widening participation strategy in higher education in England」
<https://researchbriefings.parliament.uk/ResearchBriefing/Summary/CBP-8204>
- [12] UCAS : UNCONDITIONAL OFFERS - AN UPDATE FOR 2019
<https://www.ucas.com/file/250931/download?token=R8Nn7uoI>
- [13] the Department for Business, Innovation and Skills 「National strategy for access and student success in higher education」 P94, P88, P85
https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/299689/bis-14-516-national-strategy-for-access-and-student-success.pdf
- [14] UCAS END OF CYCLE REPORT 2019 CHAPTER 6: WIDENING ACCESS AND PARTICIPATION
<https://www.ucas.com/file/292716/download?token=Q9ctjA-F>
- [15] Office for Students : Continuation and transfer rates
<https://www.officeforstudents.org.uk/data-and-analysis/continuation-and-transfer-rates/continuation-rates/>
- [16] The Guardian 「Social class still stops too many pupils from fulfilling their A-level potential」 Mary Richardson
<https://www.theguardian.com/commentisfree/2019/aug/15/disadvantaged-students-a-levels-university-entrance>

[17] A Winning Personality: The effects of background on personality and earnings P2-3
https://www.researchgate.net/publication/323783267_A_Winning_Personality_The_effects_of_background_on_personality_and_earnings

[18] Higher Education as a tool of social mobility, Universities ranked according to their SMGI values
<https://www.bl.uk/britishlibrary/~media/bl/global/social-welfare/pdfs/non-secure/h/i/g/higher-education-as-a-tool-of-social-mobility-reforming-the-delivery-of-he-and-measuring-professional-graduate-output-success.pdf>

[19] The Guardian 「I thought I'd made it when I got to Cambridge University. How wrong I was」 Daniella Adeluwoye
<https://www.theguardian.com/commentisfree/2019/sep/23/cambridge-university-upward-mobility-working-class-background>

[20] SEETEC 「The Value of Employability Skills to the UK Economy」 John Baumbach
<https://www.seetec.co.uk/employability/insights/value-of-employability-skills-to-uk-economy>

[21] Social Mobility Commission 「State of the Nation 2018-19: Social Mobility in Great Britain」 P1
https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/798404/SMC_State_of_the_Nation_Report_2018-19.pdf

[22] UCAS forecasts conditional unconditional offers will 'significantly decline' in 2020
<https://www.ucas.com/corporate/news-and-key-documents/news/ucas-forecasts-conditional-unconditional-offers-will-significantly-decline-2020>

【表 3-1, 3-2 に記載の機関の Access & Participation Plan 2019-2020】

<表 3-1 (20 校) >

University of St Mark & St John

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityofStMark&StJohn_APP_2019-2020_V1_10037449.pdf

Ravensbourne University London

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/RavensbourneUniversityLondon_APP_2019-20_V1_10005389.pdf

University of Suffolk

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityofSuffolk_APP_2019-2020_V1_10014001.pdf

Edge Hill University

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/EdgeHillUniversity_APP_2019-2020_V1_10007823.pdf

University of Huddersfield

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/TheUniversityofHuddersfield_APP_2019-2020_V1_10007148.pdf

Arts University Bournemouth

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/TheArtsUniversityBournemouth_APP_2019-2020_V1_1000385.pdf

University of Lincoln

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityofLincoln_APP_2019-2020_V1_10007151.pdf

University of Northampton

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/TheUniversityofNorthampton_APP_2019-20_V1_10007138.pdf

Leeds Arts University

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/LeedsArtsUniversity_APP_2019-2020_V1_10003854.pdf

Leeds Trinity University

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/LeedsTrinityUniversity_APP_2019-2020_V1_10003863.pdf

Coventry University

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/CoventryUniversity_APP_2019-20_V1_10001726.pdf

Norwich University of the Arts

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/NorwichUniversityofTheArts_APP_2019-20_V1_10004775.pdf

Canterbury Christ Church University

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/CanterburyChristChurchUniversity_APP_2019-20_V1_1001143.pdf

University of Derby

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityOfDerby_APP_2019-20_V1_10007851.pdf

Aston University

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/AstonUniversity_APP_2019-2020_V1_10007759.pdf

University of Chester

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityOfChester_APP_2019-2020_V1_10007848.pdf

University of the West of England, Bristol

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityOfTheWestOfEngland_APP_2019-2020_V1_10007164.pdf

University of Chichester

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/TheUniversityofChichester_APP_2019-2020_V1_10007137.pdf

University of Worcester

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityOfWorcester_APP_2019-2020_V1_10007139.pdf

Falmouth University

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/FalmouthUniversity_APP_2019-20_V2_10008640.pdf

<表 3-2 (19 校) >

University of Sussex

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityofSussex_APP_2019-2020_V1_10007806.pdf

Imperial College London

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/ImperialCollegeLondon_APP_2019-2020_V1_10003270.pdf

King's College London

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/King'sCollegeLondon_APP_2019-2020_V1_10003645.pdf

Kingston University London

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/KingstonUniversity_APP_2019-20_V1_10003678.pdf

Middlesex University

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/MiddlesexUniversity_APP_2019-20_V1_10004351.pdf

University College London

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityCollegeLondon_APP_2019-2020_V1_10007784.pdf

University of Westminster

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/TheUniversityOfWestminster_APP_2019-2020_V1_10007165.pdf

University of Cambridge

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityofCambridge_APP_2019-2020_V1_10007788.pdf

London South Bank University

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/LondonSouthBankUniversity_APP_2019-20_V1_10004078.pdf

Conservatoire for Dance and Drama

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/TheConservatoireForDanceAndDrama_APP_2019-20_V1_10001653.pdf

University of Durham

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityofDurham_APP_2019-2020_V1_10007143.pdf

Queen Mary University of London

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/QueenMaryUniversityofLondon_APP_2019-2020_V1_10007775.pdf

Guildhall School of Music & Drama

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/GuildhallSchoolOfMusicAndDrama_APP_2019-2020_V1_10007825.pdf

University of East London

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityOfEastLondon_APP_2019-2020_V1_10007144.pdf

Goldsmiths College, University of London

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/GoldsmithsCollege_APP_2019-20_V1_10002718.pdf

The Courtauld Institute of Art

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/CourtauldInstituteOfArt_APP_2019-2020_V1_10007761.pdf

Royal Holloway, University of London

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/RoyalHollowayUniversityofLondon_APP_2019-2020_V1_10005553.pdf

SOAS University of London

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/TheSchoolOfOrientalAndAfricanStudies_APP_2019-20_V1_10007780.pdf

University of Oxford

https://apis.officeforstudents.org.uk/accessplansdownloads/1920/UniversityofOxford_APP_2019-2020_V1_10007774.pdf

※全ての URL は 2020 年 2 月 13 日にアクセス。